

こんなことが
決まりました

予算・条例等

6月定例会では、17件の議案等を審議しました。宮地市長の所信表明に基づいた政策的予算などについて論議を行いました。

第5次総合計画 策定作業始まる

市の最上位の計画である「津山市総合計画」の第5次版の策定に向けて、関連予算の決定とあわせ、市の附属機関に「津山市総合計画審議会」を設置することを決定し、本格的な作業に着手することとなりました。

(予算額 281万円)

〈総務文教委員会での質疑〉

問 計画策定に向けた体制、策定の考え方やスケジュールはどのように検討しているのか。

答 特に市民目線を大切にした

策定となるよう、懇談会やアンケートを通じ市民ニーズの把握に努めたい。体制が整い次第協議を進め2年間で策定とするよう、オール津山で取り組む。審議会には学識経験者や関係団体の代表、市民からの公募などで委員の選出を考えている。

超小型モビリティ 導入実証事業で 低炭素都市の実現へ

成長戦略事業の一つとして「低炭素都市つやま」を実現し、地域活性化の手段とすることを目的に、次世代自動車（超小型モビリティ）の導入実証事業に関する予算を決定しました。

(予算額 2570万円)

〈厚生委員会での質疑〉

問 市では超小型モビリティに

ついて、どのような活用を想定しているのか。

答 車から排出される二酸化炭素の削減を図る。また維持管理費が安価で済むため、民間における新たなビジネスチャンスの創出等といった点に期待している。自動車メーカーの協力を得て30台を導入し、関係団体との協働により展開する予定。



次世代自動車 超小型モビリティ

事業者の設備導入や 研究開発等を支援

事業者の設備導入に対する支援や販路開拓、新商品開発等への支援制度の創設など体制の強

化を図り、事業者の新たな事業展開を促進する予算を決定しました。(予算額 1335万円)

〈産業委員会での質疑〉

問 支援体制の強化に向けた具体的な事業内容は。

答 成長戦略の柱の一つとして行う事業で、企業が行う設備導入や県外等における見本市への出展に対する財政支援と、中小企業が新商品の開発や新技術の導入等を行う際に、地域貢献を担っている地元大学や高専等とのマッチングを行い、新商品開発に向けた支援を行うものである。地域の活性化に向けて積極的な活用を促していきたい。

津山駅北口広場の 工事を本格実施

市民の皆様にあふれる誇りを持っていただける10万人都市津山の玄関口にふさわしい駅周辺の再生を目指し、津山駅周辺整備事業として津山駅北口広場の本格的な工事に着手するための